

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0870101573		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム むくげ		
所在地	茨城県水戸市笠原町字下組358-2 (電話) 029-305-5666		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年1月23日	評価確定日	平成21年4月23日

【情報提供票より】 (平成20年12月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月9日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	19 人	常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算	13.3人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年12月13日現在)

利用者人数	27 名	男性 4 名	女性 23 名
要介護1	4名	要介護2	11名
要介護3	9名	要介護4	3名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80.4 歳	最低 61 歳	最高 101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院、御茶園歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「優しさ、親切、丁寧」の理念を掲げ、利用者が住み慣れた地域で家庭的な環境のもと穏やかに暮らせるよう支援している。  
 利用者が安全、安心して暮らせるよう設置法人が運営する病院から、月2回の往診が受けられるほか緊急時に適切な医療が受けられる体制を整えている。  
 職員は利用者が人生の先輩であることを常に念頭において支援にあたるとともに、利用者が持っている生活の技や生活文化の大切さなどを教えてもらえるよう場面づくりをしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題だった介護計画の作成については家族等と話し合い、意見や希望を聴くなど情報が得られるよう改善したが、自己評価を全職員で取り組む体制や職員の段階に応じた研修の受講体制、外出支援における散歩以外のドライブなどで気分転換を図ることは今後も検討し改善することが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットの管理者は自己評価や外部評価の意義を理解しているが、全職員で自己評価に取り組むまでには至っていない。                  外部評価結果をミーティング時に報告しているが、改善に取り組むまでには至っていないので全職員で改善に取り組む、サービスの質の向上に努めることを期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は市職員や民生委員、利用者の家族、職員を委員として2ヶ月に1回開催し、ホームの状況を説明するとともに課題を話し合っている。                  会議の結果は職員に報告し、サービスの質の向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。                  家族等の訪問時にお茶を出すなどで話しやすい雰囲気づくりに努め、意見を汲みあげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の敬老会や小学校の運動会に参加したり、ホーム行事の納涼祭やクリスマス会のプログラムを配布し地域の人々に参加を呼びかけ交流している。                  また、地域のボランティアが1年を通して定期的に訪れている。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく安心して暮らせるよう「優しさ、親切、丁寧」の理念を全職員で理解し支援している。	○	地域密着型サービスとしての理念の作成が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホールの見やすいところに理念を掲示するとともに、朝のミーティングや夕方の申し送り時に全職員で話し合い理念を共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会や小学校の運動会に参加したり、ホーム行事の納涼祭やクリスマス会のプログラムを配布し地域の人々に参加を呼びかけ交流している。 また、ボランティアが1年を通して定期的に訪れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットの管理者は、自己評価や外部評価の意義を理解しているが、全職員で自己評価に取り組むまでには至っていない。 外部評価結果をミーティング時に報告しているが、全職員で改善に取り組むまでには至っていない。	○	外部評価の意義や目的を全職員に周知するとともに、全職員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員や民生委員、利用者の家族、職員を委員として2ヶ月に1回開催し、ホームの状況を説明するとともに課題を話し合っている。 会議の結果は職員に報告し、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者にはホーム行事への参加を呼びかけるとともに、サービスの取り組みについても話し合っているが、頻度は多くない。 介護相談員の受け入れをしている。	○	市の担当者とは定期的に話し合い、地域の人々と連携を図るよう積極的に取り組むことが望まれる。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに費用の請求時に暮らしぶりや健康状態を報告している。 また、家族の訪問時のほか電話で近況報告をしている。 金銭管理は出納帳に記録し、必要に応じて家族から確認のサインを得ている。	○	ホーム便りを発行し、定期的に家族へ報告することを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置している。 家族等の訪問時にお茶を出すなどで話しやすい雰囲気づくりに努め、意見を汲みあげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間の異動は最低3ヶ月以上の期間において実施し、職員が全利用者と同顔馴染みになるよう配慮している。 また、異動時には利用者に紹介するとともに十分に引き継ぎをしてダメージを最小限に抑えるよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を掲示したり職員に直接奨めるなど、外部研修にできる範囲で参加するようにしているが、有料の研修への参加は困難となっている。 また、管理者や職員を段階に応じて育成する体制には至っていない。	○	年間の研修計画を作成し、管理者や職員の段階に応じて研修を受講していくことが望まれる。 外部研修が困難な場合は、内部研修を充実することを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設置法人が運営する関連のグループホームと定期的に開催する連絡会で交流する機会をつくり、サービスの質の向上に活かしているが他の同業者と交流を行うまでには至っていない。	○	管理者や職員が他の同業者と交流し、情報交換などでサービスの質の向上に取り組むことを期待する。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人や家族等に見学してもらうとともに、利用に向けた話し合いを行い納得してもらったうえで利用開始を決定している。 また、利用開始後落ち着くまでは家族等に訪問してもらうなどで徐々に馴染めるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者が有する生活の技や文化について教えてもらうとともに、不安や困っていること等を聴くなどで支援しながら支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活のなかで利用者一人ひとりの表情や過ごし方を観察するとともに、声を掛けたり話しを聴くなどで利用者の思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者や家族、関係者と話し合い希望や意見を聴くとともに、日常生活のなかで気付いたことを職員が取りまとめて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常生活で利用者の状況に変化が生じた場合は関係者や職員で話し合い、現状に即した介護計画に見直している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	設置法人が運営する病院以外の医療機関を受診する際に、家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添いをしたり、市役所への保険料の納付や買い物を代行するなど柔軟に支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置法人が運営する病院が基本的にかかりつけ医となっており、1ヶ月に2回の往診がある。 他の医院に受診を希望する場合は、家族や職員で支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成21年2月から利用者や家族との契約時に「重度化・看取りに関する説明及び同意書」を取り交わすことにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損ねないように、排泄の声掛けや介助の際は他の利用者に気付かれないよう配慮している。 記録等書類の取扱いは利用者等の手の届かないところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の体調や気分に合わせてできること、やりたいことなどをコミュニケーションを取りながら支援している。 希望にそって部屋での食事やお茶等を柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の持っている力に応じて、食後の下膳や食器拭きなどの後片付けを一緒にしている。 職員は利用者と一緒に食卓を囲み、会話をしながら楽しく食事ができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週2回と決まっており、午前中の入浴になっている。 入浴の順番や、入浴時間は利用者の希望にそって支援している。	○	入浴回数を増やしたり、午後からの入浴に取り組むなど、利用者の意向や希望にそって入浴が楽しみになるように支援することを期待する。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を把握するとともに、食事の後片付けや掃除の手伝い、洗濯物たたみ、編み物や洋裁など得意分野で役割りや楽しみごとができるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一部の利用者は敷地内の散歩や外来受診で出かけたときに買い物をしたり、家族と共に近隣で買い物や外食をしている。 利用者一人ひとりの希望にそった外出支援を行うまでには至っていない。	○	花見や紅葉狩りなど季節に応じた年間の外出行事計画を立て、外出が楽しいものとなるよう支援することを期待する。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は外から自由に入れるが、内側から外へは出られないよう施錠している 家族や関係者には十分な説明を行い理解を得ている。	○	日中の見守り体制を検討し、玄関に鍵をかけないケアに取り組むことが望まれる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し避難訓練を年2回実施している。 災害時における近隣の人々の協力を得られるまでには至っていない。 また、飲料水や食料等を備蓄するまでには至っていない。	○	災害時における近隣の人々の協力を得られるよう、市の担当課を通して関係を築くことを期待する。 また、飲料水や食料等を3日分程度備蓄することが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は毎食後、利用者一人ひとりの食事と水分の摂取量をチェック表に記録し共有している。 献立は設置法人の管理栄養士が一括して作成し、栄養バランスもよく利用者の状態に応じて食事を提供している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの居間や食堂、廊下等は広く明るい構造になっている。 廊下やホールは季節の行事に合わせた飾り付けをし、季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の馴染みの家具などを持ち込んだり、写真や賞状を壁に掛けるなど利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。